

栗田工業

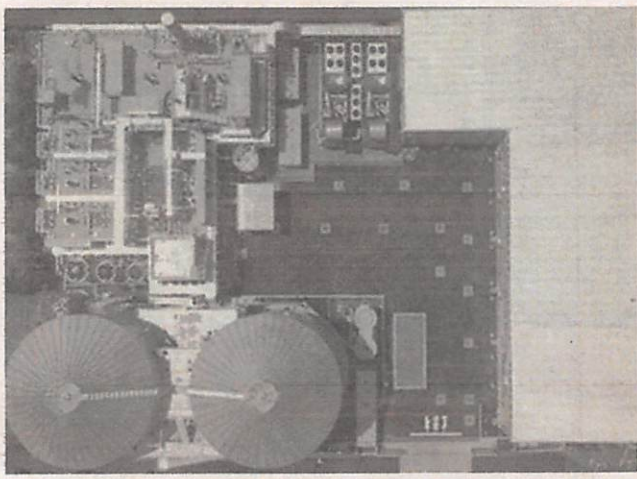
羽村バイオガス発電に参画

排水処理などで貢献へ

栗田工業は10月22日、特別目的会社の「合同会社羽村バイオガス発電」(東京都羽村市)に参画したと発表した。ユーシジョンを提供し、

同発電所の安定操業に貢献するとしている。

羽村バイオガス発電は、アーキアエナジー(東京・港、植田徹也社長)が企画・運営するプロジェクトで設立された。今年7月には、食品廃棄物を原料にメタン発酵ガス化発電を行う「羽村バイオガス発電所」を竣工しており、年内にも電力供給の開始を予定している。



羽村バイオガス発電所の外観

同発電所は、食品廃棄物など1日当たり約80トンの処理、年間約770万キロワットの発電能力を持つ施設で、前処理棟、発酵槽、排水処理

今年7月に竣工、都内で貴重な食りの受け皿に



中期経営計画で重点的に取り組むテーマとして、社会との共通価値創造に向けた「持続可能なエネルギー利用の実現」と「廃棄物の削減」を掲げる。同社では、

設備、発電設備で構成される。栗田工業では、水処理薬品、水処理装置、メンテナンス・サービスなどの三つの事業領域を持つグループの強みを生かして、安定操業をサポートする。クリタグループは、

「バイオガス発電事業は、廃棄物や温室効果ガスの削減だけでなく、地産地消や災害時の電力供給といった地域貢献につながる事業であり、今後、普及を積極的に推進していく」としている。